



碧南ロータリークラブ週報

第2279回例会 平成17年8月10日(水)

●会長 岡田 超勇 ●幹事 亀山 裕一 ●SAA 長田 豊治

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail:info@hekinan-rc.jp

■会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聰之・岡本明弘

超我の奉仕

2005~2006年度
国際ロータリーのテーマ



● 齊唱

ロータリーソング「我らの生業」



岡田超勇会長

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



鶴本花織様

● 本日のお客様

名古屋外国語大学現代国際学部講師 鶴本花織様

米山奨学生 蔡 於今(サイ ヨキン)様

会長挨拶

2760地区のロータリー財団セミナーが8月5日に開催され、井上ロータリー財団委員長さん、石川副幹事さん、と私の三人で参加してまいりました。詳しいことは、11月のロータリー財団月間で委員長さんから具体的な話があるかと思います。宜しくお願ひしたいと思います。

さて、毎日暑い日が続いております。皆様方も身体に気をつけ、この暑い夏を乗りきってもらいたいと思います。最近、新聞紙上をにぎわしている、いろいろな出来事がたくさんあります。一つは、7月に行われた水泳の世界選手権があります。日本は過去最高の12個のメダルを獲得し、大いに活躍をしました。また、陸上の世界選手権が今もヘルシンキで開催されています。日本選手の活躍が期待されております。また、夏の甲子園の高校野球も始まりました。ただ、愛知代表の愛工大名電が初戦で負けたのは大変残念であります。アメリカが打ち上げた日本人の野口聰一郎さんの乗ったスペースシャトルが無事帰還をしました。その中で特に印象的だったのは、参議院で郵政改革法案が否決され衆議院が解散されました。このような解散は憲政史上今までに例がないそうです。

この暑い中、さらに暑い選挙戦が繰り広げられると思います。

幹事報告

- 理事会報告及び他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。

- カムリー・バンク募金のお願い文書をメールボックスに入れておきました。

お気持ちのある方は個々で申込みをして頂きますようにお願い致します。



亀山裕一幹事

- ・次週8/17は年間スケジュール表に記載の通り定款第5条第1節Cにより休会です。お間違いのないようにお願い致します。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 77名（内出席免除者 15名）出席者 62名	
出席対象者 50／62名	出席率 80.65%
欠席者15名(病欠者0名)	前回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 青木 稔君 卓話の講師として姪の鶴本花織を紹介させて頂きます。ロータリー奨学生としてお世話になった返礼として招きました。なにしろ日本人度30～40%くらいのひとですので、ご理解下さいますように。どうぞよろしく。
- 鈴木 並生君 8月は会員増強月間です。皆様のご協力お願い致します。なお、本日の講師鶴本さんを紹介させて頂きます。
- 木村 徳雄君 7日に新美真司さん、角谷信二さんに大変お世話になりました。楽しかった出来事でした。

卓 話

「イギリスに於ける現代アート」

名古屋外国語大学現代国際学部講師 鶴本花織様

こんにちは。鶴本花織です。日本人度30～40%くらいです。日本語で間違いを起こすかもしれませんのが頑張って話しますので宜しくお願いします。

私は94年、ロータリー奨学金で英国に渡っております。現職は名古屋外国語大学現代国際学部で講師をしております。担当は国際ジェンダー論とカルチュラル・スタディーズです。名古屋外国語大学は、少人数制クラスを一つの教育形式の特徴としていますが国際ジェンダー論は人気があり、90名もの受講生でやっております。今日はロータリー財団から奨学金を受け、1994年～2001年の7年間の英国での生活体験から、イギリスにおける現代アートというテーマで話をさせて頂きます。



鶴本花織様

まず私の修士課程のメディア研究というプログラムですが、当時私は、カルチュラル・スタディーズという新しい学問に非常に関心を持っていました。その学問というのは、それまでは学問の対象とされなかったというような社会的テキスト、例えば広告・テレビ番組・女性雑誌のようなものを学問の対象にしていこうということを掲げている研究分野であります。私が行きましたサセックス大学にはカルチュラル・スタディーズの学位はなかったんですが、メディア研究というプログラムがありまして、これがカルチュラル・スタディーズの一分野と呼べるということが分かったのでメディア研究の学位を取った訳であります。

サセックス大学は、キャンパスが牧草地の中にポツーンとある大学でした。ここは、いわゆるイギリスでいう赤レンガ大学という類のもので、60年代に政府が大学での教育を受ける機会を増やすという考え方で、大学の数を意図的（何もない所の土地を買って大学を造る）に増やした大学がありました。その為、海外留学生としましては、寮生活という中で友達をつくりやすい環境にはありました。ただ、隔離された空間の中でしたのでイギリス人とあまり友達になれないような状況もありました。イギリスに来ているのにイギリス人の人と知り合う機会がないということ。冒頭で話しましたカルチュラル・スタディーズという学問を勉強したかったということで、サセックス大学での修士課程は一年で取得して、博士課程は志望校のロンドン大学に入籍しました。

ロンドン大学は幾つかの分校がありまして、その一つ、ゴールドスマス校に行きました。一番最初に驚いたのは、サセックス大学とは全く対照的に校舎の周りを取り囲んで町があって、それ

がすごく汚いというか、建物も古く埃を被っている、そこに住んでいる人の着ている服も色あせているということで、本当にびっくりしたということを今でも憶えています。実際、大学の寮に入る訳ですが、危険いろいろな出来事がありました。例えば、真夜中に警察官が寮の中に入ってきて、鉄砲を持って逃げてきた人を取り押さえた事件とかがありました。実際、大学の周りの町は全て監視カメラがついていて、警察の方もしっかり監視していて、何かがあった場合には5分以内に到着してくれるという状況であったんですが、それでも非常に危険でした。

90年代のイギリスが、すごく荒んでいたということが理解して頂けたと思います。それは当時、イギリスは貧困の差が激しかったということを示しているんです。イギリスは、もともと伝統的に階級文化がありましたが、80年代にサッチャー政権が医療制度・教育制度などのいろんな制度の民営化を計った結果、90年代は前よりも貧困の差が激しくなって荒んでいた。要するに、あまりにも急いで民営化して犯罪率が高まったということがあったのが私の体験したイギリスでした。

ここで、イギリスに於ける現代アートのテーマに入るんですが、そんなイギリスの中で何も新しいもの、アーティスティックなものが誕生していなかったかというと、当時80年代から90年代にかけてヤングブリティッシュアーティストのグループの人達がいて、注目されていた作品を作っていました。彼らは伝統的な芸術様式というものを解体させるような作品を作っていました。イギリスにはターナー賞（アーティストに与える賞）というものがあります、イギリスの若い芸術家の多くは、このターナー賞を取って有名になっております。最も有名な一人は、ダミアン・ハーストです。彼の作品は、鮫一匹をまるまるホルマリン漬けにし、保存して、そのホルマリン漬けした鮫を綺麗な大きなタンクに入れて、それをアート作品として出品しています。そういうものが、現代アートの最も優秀なものとして評価されています。もう一人紹介しますと、トレイシー・エミンという女性です。彼女の99年の作品は、普段自分が使っているベッドを自分のベッドルームから持ち出して非常に著名な美術館に持ていって出展（マイベッドという名前の作品）しています。そういう作品が今のイギリスの現代アートの代表例です。これが100年後、200年後、良いアートだったと評価され続けるかどうかは解りません。例えば、私達は今の印象派のゴッホの作品をアートだといって鑑賞しています。当時ゴッホが生きている間は、周りの人達はほとんどアートとしては認めてなかった訳です。実際、今、話しました作品がこのままアートとして評価され続けるかどうかは解りませんが、今は現代アートの代表例として認められています。

今回、私が何故このような話をしたかといいますと、イギリスで生活した中で貧困の差を見ていきますと学問的な形でもいい、アーティストとしてでもいい、どんな形でもいいから、何らかの形で何か違った社会のあり方、文化のあり方を模索していく人達を応援して行きたいと思っています。何らかの形で、今の社会のあり方に刺激を与える、考えさせてくれる作品は大切にして行きたいという思いがあります。今日は、そのような世界があるということを皆様方に話をさせて頂きました。

長時間、ありがとうございました。

次回例会案内 平成17年8月31日（水）

卓話「25分でわかる新会社法」 会員 森田雅也君